

翔

2007 February
No.184
百万石蝶談会

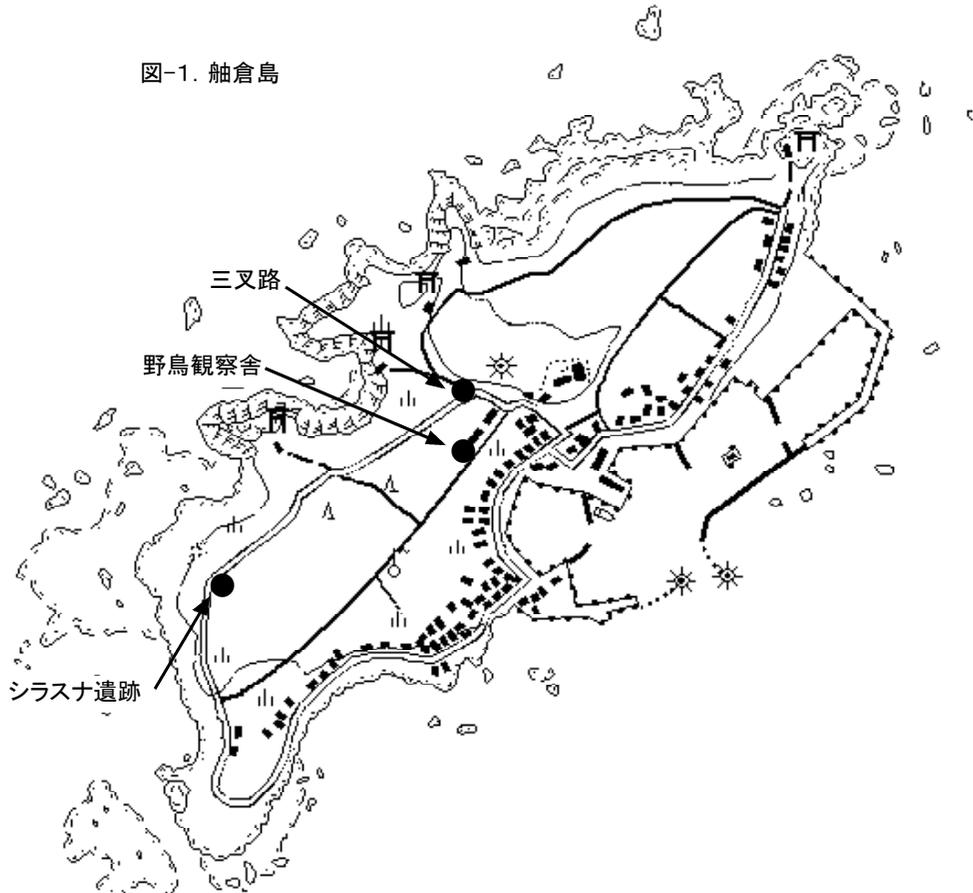


2006年、輪島市舳倉島で新たに蝶3種を目撃する

後藤義夫・野村 明・日吉芳朗

能登半島の先端にある輪島市沖50kmに位置する孤島舳倉島（図1）には、2005年までに14種の蝶が採集あるいは目撃されていた。しかるに2006年、新たにキベリタテハ、メスグロヒョウモン、アゲハチョウの3種が目撃されたので報告する。

図-1. 舳倉島



■アゲハチョウ

9月29日、14時頃、アゲハチョウ1♂が、シラスナ遺跡の30mばかり灯台よりの外周道路を飛行しているのを野村が目撃した。前・後翅とも欠損部分や破れがひどく、風に流されてきた状況は一目瞭然であった。しかし、そのわりにはしっかり飛行し、静止する様子はまったくなく、海岸と反対方向の松林方面へ飛び去った。そのため写真を撮影することができなかった。

アゲハチョウ 2006年9月29日 輪島市舳倉島 1♂目撃 野村 明

これは、島での最初のアゲハ類の記録であるが、その食草がみられないことから本土からの飛来の可能性が高いようにみえる。

■キベリタテハ

9月7日、正午頃、キベリタテハ1頭が、外周道路三叉路周辺の路上に静止しているのを後藤が目撃し、写真を撮影した(図2)。その後、灯台の方へ飛翔し姿を消した。翌8日、やはり正午頃、野鳥観察舎周辺を飛翔するのを後藤が目撃したものの、その後、姿を見ることはなかった。この個体の外縁の横帯がかなり白化していたが、本種の越冬個体は必ず白化するとされているものの、そのようなことは考えづらく、またどこから飛来したのか、国外を含めて考えることも可能であり、謎の多さに困惑している(後藤・日吉、2006)。

キベリタテハ 2006年9月7日 輪島市舳倉島 1頭目撃 後藤義夫



図-2. 9月7日に舳倉島で撮影されたキベリタテハ(後藤 義夫撮影)

なお、能登半島には過去に1例の記録がある。2000年8月26日、輪島市鉢伏山(標高500m地点)で日吉が1頭を目撃している(日吉、2001)。

■メスグロヒョウモン

9月26日、正午頃、メスグロヒョウモン1♀が、野鳥観察舎の水場周辺を翔びまわり、吸水し、さらに近くの葉や花（吸蜜は確認できなかった）に静止するのを後藤が目撃し、野村が種を確認して、両者が写真を撮影した（図3）。その後、同地で27、28日にも目撃されたものの、28日に日吉が渡島した際は、その姿を見ることができなかった。なお、♀の吸水はたいへん珍しい。

メスグロヒョウモン 2006年9月26日 輪島市舳倉島 1♀目撃 後藤義夫・野村 明



図-3. 9月26日に舳倉島で撮影されたメスグロヒョウモン(野村 明撮影)

嵯峨井淳郎氏によると、島でヒョウモン類が見つかるのであればツマグロヒョウモンであろうとのことであったが、メスグロヒョウモンが先んじたことになる。

■舳倉島の蝶の記録

舳倉島での蝶の記録種は、1960年代後半までは、ヒメアカタテハ、モンキチョウ、ヤマトシジミの3種にすぎなかったが、1968年、モンシロチョウ、キタテハ、アカタテハが大野正男氏により追加されて6種となった（大野、1969）。氏はその際、島の植生などを考えると、「恐らく今後徹底した調査が試みられようとも、これまでの記録以外には、新たな追加種はあまり期待できないだろう」とされ、食草条件が満たされているイチモンジセセリ、ルリタテハ、ジャノメチョウ、ヒメウラナミジャノメ、ベニシジミなどもまったく

見られなかったと記された。その後、1986年までに長距離移動をすることで知られるイチモンジセセリとアサギマダラ、そしてルリシジミが記録された（石川県環境部、1986）。そして、2000年にルリタテハを日吉芳朗が（日吉、2001）、2001年にベニシジミを矢田新平氏が（矢田、2002）、2001年にウラギンシジミを日吉南賀子氏が（日吉・日吉、2002）、2002年に迷蝶のリウキュウムラサキを渡部良樹氏が（渡部、2003）、2002年にウラナミシジミを日吉芳朗が（日吉・他、2003）、採集あるいは目撃して、記録種は14種となった。

ところで、アカタテハであるが、1968年に1頭目撃されていたが、1989年になり堀紳二氏により再度目撃された（堀、1990）。その後、総数で2頭採集、5頭目撃の記録があるものの、個体数は少ないようである。またキタテハは、1968年には個体数が最も多い蝶とされ、1986年には比較的好く見かける蝶と記されているが、現在は希種と考えてよいように思われる。最近では、2005年に日吉（日吉、2006）と野村の記録があるが、2006年には目撃されていない。

キタテハ 2005年10月13日 輪島市舳倉島 1頭目撃 野村 明

キタテハ 2005年10月14日 輪島市舳倉島 1頭目撃 野村 明

なお、渡部氏は、1997年9月26日、迷蝶のメスアカムラサキ（あるいはカバマダラ）と思われる蝶を目撃されたが、確認できなかった。またバードウォッチャー（氏名不明）が2002年5月27日、キチョウとみられる蝶を目撃されたという。

本稿を記すにあたり数々のご教示を与えられた松井正人氏に厚くお礼を申しあげる。

《参考文献》

- 後藤義夫・日吉芳朗（2006）キベリタテハを石川県輪島市舳倉島で目撃。月刊むし（430）：6。
 日吉芳朗（2000）キベリタテハを輪島市鉢伏山で目撃。翔（147）：1。
 日吉芳朗（2001）アサギマダラを求めて輪島市舳倉島をおとずれる。翔（149）：3-4。
 日吉芳朗（2006）石川県輪島市での2005年の蝶の採集・観察記録から。翔（178）：1-2。
 日吉芳朗・日吉南賀子（2002）石川県輪島市での2001年の蝶採集記録から。翔（158）：4-6。
 日吉芳朗・他（2003）石川県輪島市での2002年の蝶採集記録から。翔（163）：1-2。
 堀 紳二（1990）日本海の島を訪ねて。CICADA 9(4)：9-12。
 石川県環境部（1986）舳倉島・七ツ島の自然：1, 61。石川県。
 大野正男（1969）舳倉島の蝶類。蝶と蛾（20）：57-58。
 渡部良樹（2003）石川県舳倉島でのリウキュウムラサキの撮影記録。蝶研フィールド（205）：25-26。
 矢田新平（2002）4月下旬～5月上旬に舳倉島で観察した蝶類。翔（157）：3。

《ごとう よしお 〒493-8001 一宮市北方町北方南辰巳前46-4》

《のむら あきら 〒615-8082 京都市西京区桂上豆田町39-16》

《ひよし よしろう 〒928-0001 輪島市河井町1部64-1》

2006年石川県のムラサキツバメ

松井 正人

暖地系種のムラサキツバメは、近年になって日本国内で顕著な北進が観察され、石川県では、2005年になって白山市、金沢市、羽咋市で発生が確認された（松井、2006a）。2006年は、越冬の可能性と各地での発生状況を調査したので報告する。

報告するにあたり、白山市白山郷運動公園周辺におけるムラサキツバメの発生について、ご連絡いただいた松田俊郎氏に、お礼申し上げる。

■調査方法

ムラサキツバメの幼虫は、主にマテバシイやシリブカガシの新葉を食べて成長するが、石川県内には、どちらも自然状態では生育せず、発生調査は、公園や街路に植えられたマテバシイの土用芽やひこばえを利用して行った。

表-1. 調査地と調査日

	1 志賀町 増穂街路樹	2 志賀町 高浜街路樹	3 羽咋市 千里浜街路樹	4 宝達志水町 押水運動公園	5 津幡町 横浜中央公園	6 内灘町 内灘霊園	7 金沢市 八田競馬場	8 金沢市 忠縄北部公園	9 金沢市 荒屋街路樹	10 金沢市 袋島西部緑地公園	11 白山市 白山郷運動公園	12 白山市 松本工業団地	13 白山市 鹿島
4月 9日										×			
4月22日		空白：調査せず								×			
4月29日		×：発見できず								×			
5月 5日		●：発生観察								×		×	×
5月14日		○：発生の連絡								×			
7月 2日									×	×			
7月30日							×						
8月 5日							×		×				
8月15日							●	●	×				
8月16日												×	×
8月19日		×	×	×	×	●	●	●					
8月23日											○		
9月16日				×	×		●						
9月17日									×				
10月 1日													×
10月14日	×	×	×										

■調査結果

1 羽咋郡志賀町増穂街路樹

10月14日に一度だけ調査を行った。国道249号線に沿って旧富来町役場前周辺から増穂交差点にかけてマテバシイが植えられている。土用芽は多くなく、ムラサキツバメは見つからなかった。

2 羽咋郡志賀町高浜街路樹

8月19日と10月14日に調査を行った。志賀町役場周辺からハマナス交差点にかけて180本を越えるマテバシイが植えられている。二度の調査共に、根際からはひこばえがたくさん出ていたが、ムラサキツバメは見つからなかった。10月14日には、二本に花が咲いていた。

3 羽咋市千里浜街路樹

2005年には、ムラサキツバメの幼虫や蛹が、たくさん観察された場所である。8月19日と10月14日に調査を行ったが、ムラサキツバメは見つからなかった。マテバシイの本数は多く、土用芽、ひこばえ共にもたくさん出ていた。

4 羽咋郡宝達志水町押水運動公園

8月19日と9月16日に調査を行った。マテバシイが55本植えられ、二度の調査共に土用芽、ひこばえ共にたくさん出ていたが、ムラサキツバメは見つからなかった。

5 河北郡津幡町横浜中央公園

8月19日と9月16日に調査を行った。公園の築山にマテバシイが数本あり、二度の調査共に土用芽、ひこばえ共に出ていたが、ムラサキツバメは見つからなかった。

6 河北郡内灘町内灘霊園

8月19日に調査を行った。マテバシイが59本植えられ、土用芽、ひこばえの状態は共に良好だった。食痕が見つかったことから、丹念に探すと羽化済の蛹巢(図-2)、初齢幼虫、成虫が見つかった。今回の調査で成虫が観察されたのは、ここだけである。

2006年8月19日 河北郡内灘町内灘霊園

羽化済蛹巢 3巢

初齢 1幼、1♀

松井正人 目撃

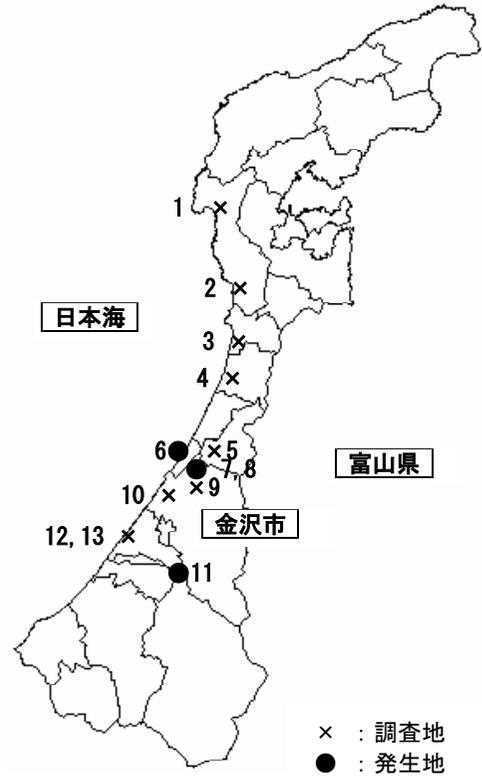


図-1. 調査地と発生地



図-2.
ムラサキツバメが羽化し蛹の抜殻が脱落したと思われる蛹巢
(2006年8月19日撮影)

7 金沢市八田競馬場

7月30日から9月16日にかけて調査を行い、8月15日に初観察した。駐車場の隅に緑地帯があり、マテバシイが数本植えられている(図-3)。剪定や掃除などの管理が行き届いている場所で、ひこばえや土用芽は、しばらくすると切られてしまうが、7月30日から9月16日にかけては、新葉が有り幼虫が観察できた(図-4)。

2006年8月15日 金沢市八田競馬場 12幼 松井正人 目撃

2006年9月16日 金沢市八田競馬場 20幼(内10幼は終齢) 松井正人 目撃



図-3.
駐車場の隅にある管理が行き届いた緑地帯に有る発生木
(2006年8月19日撮影)



図-4.
ひこばえの葉裏に止まる終齢幼虫と食痕(2006年8月19日撮影)

8 金沢市忠繩北部公園

8月15日と8月19日に調査を行った。公園のあちらこちらにたくさんのマテバシイが植えられているが、観察できたのは薄暗い林内にあった高さ2m程の1本だけ(図-5)。15日には、ほとんどが終齢で、19日には蛹化のためか、ほとんどが樹を下りていた(図-6)。

2006年8月15日 金沢市忠繩北部公園 15幼 松井正人 目撃

2006年8月19日 金沢市忠繩北部公園 3幼3前蛹 松井正人 目撃



図-5.
薄暗い林内に1本だけポツと
あった発生木
(2006年8月19日撮影)



図-6.
マテバジイの根際から見つかった
前蛹(2006年8月19日撮影)

9 金沢市荒屋街路樹

8月15日に調査を行った。県道201号線やそれに接続する道路の両側にマテバジイが植えられている。土用芽は多くなく、ムラサキツバメは見つからなかった。

10 金沢市袋島西部緑地公園

マテバシイの数が多く、2005年にはムラサキツバメの全ステージが観察され、成虫もたくさん観察された場所である。4月9日から9月17日にかけて継続して調査を行ったが、ムラサキツバメは見つからなかった。5月5日には、多数の孵化殻を観察したが、これは前年に産まれたものが、冬季に脱落しなかったものと判断された(松井、2006b)。

11 白山市白山郷運動公園周辺

2005年には、ムラサキツバメの全ステージが観察された場所である。マテバシイの数は多いが、7月2日の調査では、ムラサキツバメは見つからなかった。8月23日になって、白山郷運動公園周辺に住む松田俊郎氏から、数本の樹で発生を観察したと連絡をいただいた。

2006年8月 白山市白山郷運動公園周辺 幼虫 松田俊郎 目撃

12 白山市松本工業団地

5月5日と8月16日に調査を行った。3箇所の工場で敷地の周囲にマテバシイが植えられている。土用芽は多くなく、ムラサキツバメは見つからなかった。

13 白山市鹿島

5月5日と8月16日、10月1日に調査を行った。県道25号線横に工場があり、県道との間に数本のマテバシイが植えられている。強い剪定がなされ新葉ばかりだったので、3度の調査を行ったが、ムラサキツバメは見つからなかった。

■まとめ

今回の調査では、越冬の可能性を思わせる春の発生は、観察できなかった。これは、2005年の12月には、金沢市の積雪が48cmとなる観測史上5番目の大雪が降り、翌年の2月には、日中の気温が氷点下の真冬日を5年ぶりに記録するなど、2005年から2006年にかけては、近年にない厳しい冬だったことから、ムラサキツバメは越冬できなかった事がうかがわれる。しかし、8月には小規模な発生が観察されたので、ムラサキツバメは「ごく少数が越冬した」あるいは「石川県へ再飛来した」と思われる。

《 参考文献 》

松井正人（2006a）石川県で発生したムラサキツバメ. 翔（178）：3-9.

松井正人（2006b）石川県で5月にムラサキツバメの孵化殻多数を発見. 翔（183）：2.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

2006年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額（円）	項 目	金額（円）
2006年度会費	102,000	会誌作成費	157,500
当該年度以外会費	22,000	例会費	24,000
会誌売上金	18,000	石川県自然史センター会費	3,000
郵送負担金	21,500	郵送費	33,500
寄付金	900	消耗品費	3,200
前年度繰越金	278,667	慶弔費	10,000
		次年度繰越金	211,867
計	443,067	計	443,067

年会費は2,000円、郵送負担金は500円

（「石川県自然史系団体協議会」は、2005年12月1日に、特定非営利活動法人「石川県自然史センター」に移行しました。）

石川県加賀市に於けるトゲナナフシの新たな観察地

松井 正 人

石川県加賀市に於いて、トゲナナフシの新たな観察地が見つかったので報告する。

トゲナナフシは、2000年になって初めて石川県で発見され（浅地、2003）、これまでに加賀市から金沢市にかけての四市で観察されている（松井、2006）が、観察地は多くない。2006年は、南は加賀市から北は河北郡津幡町にかけて、10月から12月にかけて20回程度の調査を行ったところ、加賀市で新たな観察地が見つかったが、その他の市町では、新たな観察地は見つからなかった。



図-1.加賀市大聖寺畑のトゲナナフシ



図-2.加賀市のトゲナナフシ観察地

■加賀市で見つかった新たな観察地

2006年11月25日	加賀市直下（標高30m）	6 ♀目撃	松井正人
2006年12月16日	加賀市日谷（標高40m）	1 ♀目撃	松井正人
2006年12月16日	加賀市大聖寺畑（標高10m）	3 ♀目撃	松井正人
2006年12月16日	加賀市大聖寺敷地（標高30m）	1 ♀採集	松井正人

これまでの観察地や今回見つかった直下、日谷の観察地は、いずれも加越山地に連なる丘陵地にあるのに対し、今回見つかった大聖寺畑や大聖寺敷地のある加賀海岸丘陵は、低地によって山地や他の丘陵地からは隔てられている。

《 参考文献 》

浅地哲也(2003)特別寄稿《石川県金沢市のトゲナナフシ》. 翔(165):1.

松井正人(2006)石川県のトゲナナフシについての追加産地と追加知見. 翔(181):7-8.

藤 則雄監修 (1985) 理解しやすく親しめる石川の地形・地質案内. 281pp.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

会員の動き・しゃばの動き

■紅頭嶼で再捕獲されたアサギマダラ

コウトウキシタが舞うあこがれの紅頭嶼、今は蘭嶼島と呼ばれ、日本から飛来したアサギマダラが再捕獲された。長野県大町市から飛んだ個体で、直線で2200kmの距離にある。台湾の先にはフィリピンが有り、そろそろルソン島での再捕獲ツアーでも企画されるかも知れない。

■トゲナナフシはいつまで見られるか

年末年始のトゲナナフシ最遅観察が始まった。これまでの最遅記録は、暖冬だった2004年は翌年1月8日、12月から大雪が降った2005年は12月10日、さて今回は。

■日本海を越えて大陸から飛来

日本海に突き出した能登半島には、海上を飛んでいる虫が飛来する可能性は高い。その中には、はるか大陸から飛来している虫も、いるかもしれないが、外見が同じでは区別できない。しかし、DNAを使えば、大陸産かどうか分かるような気がする。

■これからのオオムラサキ幼虫採集法

寒い野外では、エノキの根元の落ち葉をゴミ袋に詰めるだけ。後は、暖かな部屋の中で、お茶を飲み、たまに漬け物でもつつきながら、のんびり枯葉の確認。屈んで腰が痛くなる事もなく、これからの季節に最適。

■クロコムラを狙って奥能登に通い詰め

クロコムラの幼虫採集に精を出している細沼氏、今期の成果はイマイチとか。原因は秋の豪雨で、増水によって河原のヤナギが水没したためらしい。この調子では、まだまだ奥能登通いが続きそう。

■各地の昆虫関係の会誌

例会時には、各地の昆虫関係の会誌を見ているが、これは各地の団体と会誌の交換をしたもので、各地の動きが分かると共に、報文の書き方の手本にもなる。例会に出席している会員は全てに目を通せ、出席できない会員には、要望があれば郵送している。

■海上のライトで採集された大型の蛾

岸から7～8キロの距離を航行する船上のライトに飛来した蛾が届けられた。大型の蛾も多数含まれ、海上と言う未知の世界に、かくも多くの蛾が飛翔しているのか、それともライトめがけて長距離を飛翔したのか、どちらにしても驚きである。

■オオムラサキの越冬幼虫採集

オオムラサキの幼虫採集が密かに広がつつある。年末には、細沼氏や浅野氏が動き回り、新年早々、浅地氏は卯辰山で採集。

■能登のカトリヤンマ

稲作と密接な関わりを持ち最近はめっきり減ったカトリヤンマ、2003年には武藤氏が富来町で目撃し、昨年2006年には福井のトンボ屋さんが、あっさり採集してしまった。内心穏やかではないのは浅地氏で、「今年はトンボに力を入れるぞ」と年頭に誓うのだった。

■標本1万頭への道のり

今年の誕生日までに、蝶の標本1万頭を目指した日吉氏、1999年から年平均900頭の標本を作製し、1万頭は、もうちょい先。誕生日は9月22日、1万頭は達成なるか。

■カマキリ観察の種別難易度

県内で観察数が少ないカマキリは、ヒナ、ヒメ、ウスバの3種で、中でもウスバが最も少なかった。しかし、2006年は各地でウスバが観察され、現在は、ヒナ>ウスバ>ヒメと、ヒメの観察数が最も少ない。

■バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑

日本から知られる455種32亜種の直翅類が収録され、2006年9月に北海道大学出版会から発行された大図鑑、ジワリジワリと有難味が出てきた。種別の都道府県別分布表が、愛好家をくすぐって調査意欲を盛り上げたり、記録発表の判断基準にもなっている。

■分布を広げるヒサマツミドリ？

1989年に、県内のウラジロガシポイントで執拗にヒサマツ調査を行ったが、生息の確認はできず、最も近い観察地は、富山県の井波市だった。ところが、2000年に富山県福光町で観察され、2002年に医王山の富山県境で1♂が採集されてからは、ポツポツと同地で観察されていた。そして、2006

年には、犀川ダムで1♀が採集されるに至った。ヒサマツが分布を広げているとは思えない。

■ 例会の記録 ■

12月7日(木) 浅地メッキ2階にて、午後8時から開催。

今回は、医王山に設置し、メクラチビヤオオズナガゴミ、ホラヒラタゴミが採れた地中トラップについて、井村会長が紹介。

虫影が少ない12月の生虫紹介では、有紋トゲナナフシとダビドサナエ、ヒラサナエの幼虫がお披露目された。

その他の話題は、ムラサキツバメの大発生は無かった、珠洲にできた奥能登の調査拠点、スジアカクマゼミの調査委託が舞い込みそう、トゲナナは今がシーズン、ウスバカマキリの観察地、空から見た石垣島の色が変だった、熊の糞と間違われた牛糞トラップ、などなど。

参加は、富沢、山岸、竹谷、松井、長田、浅地、井村、大脇の8人。

■ ■ 表紙デザイン：小幡英典 ■ ■

目 次

後藤義夫・野村 明・日吉芳朗：2006年、輪島市舳倉島で新たに蝶3種を目撃する	1
松井正人：2006年石川県のムラサキツバメ	5
松井正人：石川県加賀市に於けるトゲナナフシの新たな観察地	10
編集部：会員の動き・しゃばの動き	11

翔 184号

Tobu 2007年2月10日発行
百万石蝶談会
金沢市大場町東871-15 松井方

<http://homepage3.nifty.com/100man/>
☎920-3121 ☎076-258-2727
郵便振替 00750-8-562
印刷 小西紙店印刷所



撮影/野村 明



撮影/小橋 英典



撮影/松井 正人



撮影/松井 正人